

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104091		
法人名	社会福祉法人 菊水会		
事業所名	地域密着型サービス認知症対応型共同生活介護 にじの丘		
所在地	山口県下関市菊川町大字田部223-9		
自己評価作成日	平成24年12月15日	評価結果市町受理日	平成25年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームにじの丘は、住宅街にほど近い緑に囲まれた小高い丘の上にあります。近くに小学校があり、施設の前の通りは通学路になっています。施設は特養と併設しており、夏まつりや文化祭などの大きな行事は特養と合同でしています。併設の訪問看護ステーションより看護師が週に3回来て、入居者様の健康管理をしています。食事を三食手作りしています。中庭に畑があり、入居者様と一緒に野菜の苗植えをして、水やりや草取りをしています。収穫したものが食卓に並ぶことがよくあります。また、毎月甘酒を作り入居者様に召し上がっていただいています。2ヶ月に1回家族会を開き、入居者様、ご家族、職員で会食しています。昨年10月には、初めて家族会で日帰り旅行をしました。これからもご家族との関係を大切にします。日々、散歩や外出なども続けていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議を駐在所長、消防出張所長、地域消防団員、自治会長、小学校校長、市担当者、家族会会長、利用者等の参加を得て開催され、災害対策について話し合わせ、法人全体の火災訓練に地域消防分団員の参加を得て実施される他、町内の盆踊りや祇園祭、敬老会等への利用者の参加や祇園祭の神輿の事業所への巡行な等、事業所と地域との付き合いにつながられるなど、会議での意見をサービス向上に活かしておられます。家族に年2回満足アンケートを実施され、意見や要望の把握に取り組みとともに、年6回の家族会には多くの家族の参加があり、日帰りの家族旅行や家族からの提案によるしめなわ飾りに取り組まれるなど、利用者や家族の意見を運営に反映させて、家族との連携や協力関係を築かれています。緊急時や事故発生時の備えについて、マニュアルにそった法人研修や内部研修を計画的に実施される他、消防署の普通救命講習やAED使用訓練の受講、週2回の救命処置や止血、気道異物除去などの勉強会の実施や看護師による実践的な訓練を実施され、実践力を身につけておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の共有と、グループホーム独自の目標を職員全員で作り実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、月1回のスタッフ会議で話し合いをする他、毎日記録する「生活日誌」に記載し、日々のケアの中で確認し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事である夏祭りや文化祭に参加している。地域のボランティア(ハーモニカ、カラオケ教室)、施設見学等受け入れている。	地域の夏祭りや文化産業祭に利用者と職員が参加する他、法人の夏祭りや文化祭に地域の人や子ども達の参加があり交流している。法人施設の地域交流室にハーモニカやカラオケなどのボランティアの来訪があり、利用者はそこに出かけて交流している。小学生の体験学習を受け入れ、レクレーションやゲームをする他、祇園祭の神輿の巡行や地域の人からの野菜や花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の「地域で学びま専科」という勉強会を持ち、その中で認知症の理解を深める研修等を行い、地域の方に参加して頂けるように呼びかけ職員も参加している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に自己評価することでサービスの見直しをし、外部評価を受けることで客観的に日頃の業務を見直すことができる。また、指摘事項を改善することにより、より質の高いサービスを目指していきたい。	管理者が職員に評価の意義を説明し、その日の勤務者全員と数日間かけて評価項目の読み合わせをし、実践状況を評価して、管理者(係長)がまとめている。職員は、自分たちがどのようにケアに取り組むかを考えるきっかけとなり「個別の外出に取り組む」という意見がでるなど、ケアの見直しにつなげている。	・自己評価への取り組み方の工夫

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、入居者様の日頃の様子やサービスの取り組み状況を報告し意見をもらっている。また、地域の方からもいろいろな情報をいただき、サービスの向上に役立っている。	駐在所長、消防出張所長、地元消防団、自治会長、小学校長、家族会会長、市担当者、利用者、運営者、法人職員、管理者の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。事業所の説明、利用状況、行事、研修、ヒヤリハット(ドキット)、外部評価等について報告し、意見交換している。災害対策(避難訓練、緊急時の対応、連絡網など)について話し合い、法人の避難訓練に地域消防分団の参加を得る他、町内の盆踊りや祇園祭り、敬老会等の地域行事への参加など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町担当者に出席をしていただき、取り組みを伝えて協力をお願いしている。	市担当課と運営推進会議の他、電話で相談し助言を得たり、情報交換して協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターと、情報交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム勉強会、スタッフ会議、セーフティケア委員会等で取り上げ話し合いをしている。言葉の拘束も職員同士で注意し合いケアを行っている。	法人研修(フォローアップ勉強会)や内部研修の他、セーフティケア委員会に出席した職員がスタッフ会議で復命伝達し、職員は理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックのないケアに取り組んでいる。気になる場面があれば管理者が注意したり、職員間で話し合い、スピーチロックのないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出を察知した場合は、職員が一緒に散歩に行っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の開催する勉強会に参加し、虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、勉強会等を利用して学ぶ機会を持ち、それらを活用できるように話し合い支援していきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には担当者が説明を行い、不安や疑問点があれば、その都度説明を行い理解や納得をもらっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回御家族に満足度調査アンケートを行い、意見をいただいている。また、苦情受付の窓口があり、苦情があるときは書いていただくように、ご意見箱を設置している。	相談や苦情の受付体制や第三者委員を明示し、契約時に家族に説明している。年2回家族に満足度アンケートを実施する他、年6回の家族会や行事への参加時、運営推進会議時、面会時や電話で意見や要望を聞いている。家族からしめ飾りを利用者と一緒に作りたいという要望があり、行事として取り入れたり、面会状況を知りたいという要望があり、個別の面会簿を作成するなど、意見を運営に反映させている。玄関に意見箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は月に一度法人運営会議に出席し、現場の意見や問題点について検討している。	月1回のスタッフ会議や朝のミーティングで意見や提案を聞く機会を設ける他、日常的にも意見や提案を聞いている。職員の提案から加湿器の購入やリハビリ機器の導入、レクレーションの研修に参加したいという要望などを検討し参加の機会を提供するなど、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表の記入があり職員一人一人が目標を持っていて、上司との面談や日々の業務の中で必要なことや意見は上司に伝えている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的な研修や外部の研修に参加し、情報交換や参考にとできることを取り入れている。資格取得についても一人一人目標を持って、今以上のケアができるように努めている。	外部研修は情報を伝え、職員の段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は法人の全施設職員会議で復命し、資料等は事業所内で供覧して共有している。法人研修(身体拘束禁止、緊急時対応、リスクマネジメント等)を年間計画に基づいて月1回実施し、内部研修は2ヶ月毎に緊急時の対応などを実施している。資格取得については勤務調整して支援している。新任職員には先輩職員が日常のケアの中で、技術や知識について指導し、働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会や地域ブロック研修会に参加して、情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人とお話をして困っている事や不安な事、要望等を聴きながら、安心して生活して頂けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に御家族とよくお話をして今後の要望や不安に思われている事を聞くことで関係がスムーズにいくように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族の要望をお聴きし、今必要な事を知り、他のサービス利用も含めた対応ができるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と日常生活と一緒に過ごす中で、その方のできる事は見守りながら、できないところは一緒にしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時を利用して日頃のお話をしたり、家族会の時に面談を行い御家族からの情報を頂き共に支え合っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診の帰りや、遠出の時には以前住んでおられた場所を通りそのことを思い出しえ頂けるように努めている。	友人や知人、同級生、職場の元同僚の来訪がある他、町の敬老会への参加、自宅周辺へのドライブ、電話や年賀状の支援、家族の協力を得て、外食や外泊、墓参り、七五三や法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りリレーションをしたり、気の合う方同志の外出や散歩ができるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度退居された方でも今後のサービスの確保の情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族やご本人に、センター方式を活用して意向を伺いながらケアプランを立てケアにつなげている。	センター方式を活用する他、利用者の言動を個人記録に記録し、カンファレンスやスタッフ会議で話し合っているが、把握した思いを十分に活用されておらず、利用者の思いや意向の把握にまでは至っていない。	・一人ひとりの思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族会の面談の時にこれまでの生活歴やなじみの暮らし方、環境、これまでのサービス利用の様子を把握しようと努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の様子はケース記録に残している。特記事項は連絡帳にて情報を共有している。スタッフ会議でカンファレンスを行いケアについて話し合っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別にカンファレンスを行い課題やケアの在り方を話し合い介護計画を立てている。	計画作成担当者を中心に月1回カンファレンスを開催し、利用者、家族の意見や要望を聞き、主治医や看護師等の意見を反映して介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。要望や状況に変化が生じた場合には、モニタリングに基づいてその都度、見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践・結果・気づきや工夫を個別に記録している。また、連絡帳にも記入して情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診支援、外出支援などその人に合わせた支援を柔軟に行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケース記録や連絡帳などで情報の共有を行っている。ボランティアの受け入れもしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医の受診支援、情報の共有を行っている。また他の医療機関とも連携をとり、適切な医療が受けれるように支援をしている。	協力医療機関や入居前からのかかりつけ医の受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果や服薬については、家族と情報を共有している。緊急時の場合はかかりつけ医の指示を受け、必要に応じて関係機関に連絡する他、2週間に1回の往診や週3回の訪問看護師の来訪があるなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な健康管理は訪問看護師が週3回行っている。日頃の気づきや相談などもその都度しており、必要があれば看護師から医師に報告している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には入居者様の情報提供書を渡し、病院に入居者様の状態を報告している。入院中も病院関係者と連絡をとり、情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方についてお話している。また状態の変化は御家族に説明するようにして、必要時には主治医から家族に病状の説明等している。	看取りの指針があり、契約時に事業所ができる対応について家族に説明し、同意書も作成している。実際に重度化した場合には、家族、主治医、看護師等と話し合い、方針を共有して、支援に取り組むこととしている。看取りのマニュアルを作成し、職員は研修に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	入居者様の一人一人のリスクはスタッフ会議でしっかりと話合っている。また月に1回行われている法人内のセーフティケア委員会で事故報告をし、対策等を検討し、事故防止に努めている。	ヒヤリ・ドキット報告書や事故報告書に記録し、その日の勤務職員で再発防止策を検討して、翌朝のミーティング時に報告して共有し、月1回の法人のセーフティ会議で再検討した内容をスタッフ会議で確認し、ケアプランに反映させるなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時の備えに対しては、マニュアルがあり、週2回、救命処置や止血、気道異物除去などの項目に添って読み合わせをするとともに、看護師による応急手当や初期対応の実践的な訓練を実施している。職員は消防署の普通救命講習やAED講習を受講している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム内で定期的に避難訓練を行っている。法人が行う避難訓練にも参加している。地域との協力体制についても運営推進会議で確認している。	消防署の協力を得て、年2回、昼夜を想定した法人全体の避難訓練に参加する他、事業所独自の避難誘導訓練や通報訓練を行っている。運営推進会議を通して地域の消防団の参加協力を得る他、Eメールを一斉に流すなどの連絡方法等で地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議内でも言葉かけについて注意をするように呼びかけている。また法人内の勉強会(接遇)などに参加して学んでいる。	法人の接遇研修を受講し、職員は人格の尊重やプライバシーの確保について理解し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところがあれば管理者が指導している。個人情報の保護や守秘義務についても配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やおやつ・外出の希望・入浴の時間など日常生活の中でその都度希望を聞き、自己決定ができるように働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のそれぞれの生活のペースを大切にしている。居室で過ごされる事や居間で過ごされることも希望に沿って支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室を利用しており、ご本人の希望に沿ってカットやパーマなどされている。また朝の服は着たいものをお聞きしたり、服を選ぶ支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で採れた野菜を料理に使い、季節を感じて頂けるように心掛けている。食べられないものがある時は別の物を出すようにしている。食事のもりつけ・かたづけなど入居者様の方と職員で一緒に行っている。	法人の管理栄養士の作成した献立を参考にし、畑で採れた野菜や差し入れの食材、利用者と一緒に作った味噌などをつかって、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者と職員は、盛り付け、配膳、下膳、テーブル拭き、食器洗いなどを一緒にして、同じテーブルで食事をしている。季節の行事食(ちらし寿し、そうめん流し等)、おやつづくり(蒸しパン、ホットケーキ、甘酒、ぜんざい等)、誕生日には好みのメニューをとり入れたり、ウッドデッキでのお茶会や家族との外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを毎食時行っている。摂取量が少ない時は訪問看護師や主治医に相談をし対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行っている。それぞれの方にあった見守りや介助等をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの方の状態や排泄パターンなどに応じて、排泄介助を行っている。紙パンツから布パンツ使用やパット使用を減らすなど自立にむけた排泄の支援をしている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンや習慣を把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するために毎日朝に牛乳を飲んで頂いている。食事についても野菜を多く摂って頂くように調理を工夫をしている。また、日常的に体操や散歩などの声掛けをしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ほぼ毎日入浴をして頂いている。午後2時～6時までのそれぞれのご希望の時間に入浴をして頂いている。入浴されない時は、清拭を行っている。	入浴は14時から18時まで可能で、希望すれば毎日入浴できるように支援している。入浴したくない人には声かけの工夫や時間をずらす、日を変えるなどの工夫をしている。状態によってはシャワー浴、足浴、清拭などで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後それぞれの生活習慣やその時の状況に合わせて居室へ戻られたり、居間でテレビを観て過ごされたりしている。休まれる前には、居室の環境を整えている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成し、すぐに見ることができるようにしている。症状の変化があれば、訪問看護師や主治医に報告・連絡・相談を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の得意なことや好きな事をお聞きして、生け花・料理・編み物・裁縫・甘酒づくり・畑仕事などそれぞれの場面を提供している。	畑作り、料理、甘酒や味噌作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、水遣り、草取り、嚙下体操、生け花、縫い物、編み物、諺ゲーム、折り紙、ぬり絵、貼り絵、読み聞かせ、習字、ボランティア(カラオケ、ハーモニカや節分、夏まつり、そうめん流し、注縄飾り作り、敬老会、花火見学、クリスマス会等の季節ごとの行事等、活躍できる場面をつくり、気分転換や楽しみごとの支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物等日々の状況に応じて行っている。また、季節ごとの外出計画も立てている。	買い物、散歩、デッキでの日光浴、地域の祇園まつり、文化祭、盆踊り、敬老会、花見(梅、桜、菖蒲、銀杏、紅葉狩り)、バスでの日帰り家族旅行(カモンワープ)、自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての外泊、外食、墓参り、七五三や法事への出席など戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族より定期的にお金をお預かりしている。本人が希望される時はお渡ししている。また御本人がお金の管理をされている方もおられるので気を配り支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話はいつでもかけることができるようになっている。年賀状も書いて頂く支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間にはいつも季節ごとの花を入居者様が生けられている。また掲示板には季節を感じて頂くような工夫をし、掲示物を制作して貼っている	玄関や居間に季節の花を飾り、中庭を臨むティールームの大きな窓ガラスからは畑が見え、食堂の前のウッドデッキから眺める山やプランターの花から季節を感じることができ、天気の良い日にはお茶会もしている。食堂を兼ねた居間は広く、トップライトから陽が射しこんで明るく、利用者はテレビの前のソファくつろいだり、畳コーナーや廊下の椅子でゆったりとすごしている。壁には利用者の習字の作品や写真を飾っている。温度、湿度、換気に配慮し、廊下の手すりなど安全に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は、気の合う方で座って頂いている。また居間のソファやティールーム・廊下にも座れる場所を設置しており、ゆっくりとお話ができる環境づくりをしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お家で使われていた馴染みの物を持ってきて頂き、ご本人が居心地よく過ごして頂く支援をしている。家具の配置等は安全に過ごしていただけるよう工夫している。	テレビ、箆笥、仏壇、衣装ケース、姫鏡台、化粧品、ぬいぐるみ、時計、写真、カレンダーなど使い慣れた物や好みの物を持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内に段差はなく、手すりを廊下に取り付けている。浴室には、簡易式の手すりを追加し、安全な環境づくりをしている。また食席の椅子・テーブル・居室に名前を表示してわかりやすくしている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名： 地域密着型グループホームにじの丘

作成日： 平成 25年 10月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24 (11)	センター方式を活用する他、言動を個人記録に記録し、カンファレンスやスタッフ会議で話し合っているが把握した思いを十分活用されておらず、入居者の思いや意向の把握にいたっていない。	入居者一人一人の思いや意向の把握の工夫 1: 記録の見直し 2: センター方式とケアプランの併用活用	1: 入居者の思いを聴き、言葉を記録しそれに対してどういう対応をしたかをケースに記録するようにした。 2: センター方式のC-1-2を活用し思いや願いを把握し職員間で共通理解をした。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。